

まえがき

文部科学省平成17年・18年度「資質の高い教員養成推進プログラム」（教員養成GP）に本学教育学部・教育学研究科の「公立学校を起点とする小大連携プロジェクト」が選定され、この2年間の実践内容を報告をすることができますことを荣誉に存じます。

昨年11月12、13日開催の平成18年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」（主催：文部科学省/（財）文教協会）におきまして「資質の高い教員養成推進プログラム」の発表3大学の一つに選ばれ、パワーポイントを使用して本学のプロジェクトを紹介させて頂きました。当日は京都市教育委員会教員養成支援室長も応援に横浜まで駆け付けて下さいました。教員を養成している大学の数多くが応募したプログラム中から選定された本学「公立学校を起点とする小大連携プロジェクト」が、さらにこのフォーラムにおいて選ばれ、全国に紹介する機会を得ましたことを誇りに存じます。

「気づき」を重視する取り組みでしたが、何と言っても我々教員がこの2年間の実践を通して気づいたのは、学生への教育への情熱とその確かな能力でした。優秀な学生達さらに現場教員と三位一体となって実践する中で、学生の成長を見る喜びは何ものにも代え難いものでした。本学教育学部の教員が総力をあげて取り組んでいる本プロジェクトにおいて確かな実践力を付けた学生達が、今後社会で活躍してくれること願うばかりです。

教員が個人として実践してきた小川のせせらぎのような様々な小大連携の取り組みが、2004（平成16）年に京都市教育委員会と結んだ包括協定により、体系的な理論と実践の融合による教員養成システムとして構築され、今日のプロジェクトとして大川となって流れ出しました。2年間の実績は、本報告書に示すとおりであり、山田啓二京都府知事や門川大作京都市教育委員長を初め様々な方々に、評価と今後への示唆をいただきました。

京都府教育委員会とも協定を結び、小大連携の地域は広がりつつあります。今後は、この2年間の実績の上に、研鑽を重ね、この川の流れを絶やさず、実践力のある教員を養成することが我々教員の使命と堅く信じております。本教員養成GPを実践し、このような成果を上げることができましたのは京都市教育委員会のご協力のお陰と心中より御礼申し上げます。

今後も本プロジェクトの充実・発展を目指し、精進を重ねる所存でおります。引き続き関係各位のご指導、ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

平成19年3月31日

佛教大学大学院教育学研究科長
佛教大学教育学部長

西岡 正子

